

～安全と安心の実現～

2009年6月30日発行 6月号 No. 173

東ト協ロジ研平成21年度事業計画書  
(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

## 1 活動方針

米国のサブプライムローン問題をきっかけに始まった世界的な金融不安は、米国大手の証券会社リーマン・ブラザーズの破綻を契機に、金融マーケットの急激な縮小を引き起こし、それに伴う信用不安は实体经济にも影響をおよぼし、世界市場は収縮し始めた。日本経済は円高と輸出の激減により坂道を転げ落ちるように悪化し、企業心理の冷え込みにも底が見えない。特に外需に依存し、輸出中心に業績を上げてきた自動車、電機、半導体産業などの落ち込みは凄まじく、各社とも減産、在庫調整、生産設備の見直しや人員整理を余儀なくされ、業績悪化も顕在化してきた。

景気の冷え込みは前例のないスピードと深さで進行し、日本経済は世界同時不況の渦の中に巻き込まれ、否応なしに先の見えない新たな時代へと押し流されている。デフレの様相がさらに強まり、景気後退は鮮明となり、我々は大きな価値の転換が求められ、混迷の度を深める時代に生きることになった。

このような状況の中、業界を取り巻く環境は、軽油価格の高止まりをはじめ、景気減速の影響により輸送量は激減し、各事業者の経営はかつてない厳しい状況に直面している。さらに、環境対策や安全確保の取り組み、法令遵守、少子高齢化時代の労働力確保など、直面する課題は山積し、我々は日々、これらの諸問題への対応に追われているのが現状である。

しかし、経済環境がどんなに悪化しても、「安全はすべてに優先する」という理念のもと、国民生活と産業活動のライフラインを担うトラック運送事業者は、「安全」を確立するための取り組みを疎かにするわけにはいかない。我々はこれまで様々な角度から事故防止に対する研修を重ねてきた。今年度も引き続き、「安全と安心の実現」を統一テーマに研鑽を重ねるが、特に今年度は、「安全と安心の共創」から数えて4年目の活動となるため、その集大成の年と位置付け、様々な角度から、もう一度原点に戻り、安全についての考察を深めていこうと考える。

我々事業者は、安全な輸送を通じ、社会に安心を提供することが第一義である。その具体的な取り組みとしてドライブレコーダーを装着し、運輸安全マネジメントの確実な実行を通じ、事故撲滅の徹底をはかることが大切である。さらに経営者トップはもちろん、トラック輸送に携わる全ての人の安全に対する思想、つまり「絶対に事故は起こさない」、という強い信念と、安全を優先する企業風土作りに取り組み、昨年に引き続き協会が推進する諸施策等についても同一歩調を取り、活動を推進する。また、「貨物自動車運送事業安全性評価事業」(Gマーク)取得の充実を目指し、「グリーン・エコプロジェクト」との連携を取り、環境への配慮と安全活動は不可分一体のものであるとの観点から、「グリーン経営認証」の取得も推進する。

我々は常に社会との共生を図るためにもコンプライアンス(法令遵守)を重視し、企業の社会的責任を果たし、事故の根絶に努める活動を、本年度も多くの会員の参画により展開し、青年部、女性部とも連携を取り、一層の結束を固めると同時に、共に研鑽を重ね、この厳しい経営環境を克服すべく活動に取り組むものとする。

## 2 年間統一テーマ

「安全と安心の実現」

## 3 事業計画

### (1) 政策提言活動の実施

ロジスティクス研究会では、平成6年以来10回にわたり政策提言を行っているが、平成18年度より毎年度研修結果の取りまとめとして発表している。

本年度は昨年度に引き続き研修等での内容を研究し、その成果を発表することとする。

### (2) 研修会の体系的・計画的実施

年間統一テーマにかかる内容で効果的な研修会を実施する。

### (3) フォーラムⅣの開催

年間統一テーマに即した企画で実施する。

### (4) 納涼会の実施

会員間の親睦を図るとともに、関東運輸局・東京運輸支局長表彰等受賞会員を祝賀する納涼会を平成21年8月6日に実施する。

### (5) 温故創新セミナーの実施

歴史上の人物の足跡を現地で学ぶ「温故創新セミナー」は、昨年度埼玉県深谷市に渋沢栄一翁の足跡を訪ねたが、今年度も国内セミナーとして企画・実施する。

### (6) 人材養成事業への協力

ロジスティクス研究会が青年部OBによる自主的研修集団として発足した経緯に鑑み、今後とも人材養成等財団の研修事業に協力していく。

特に次世代経営者を養成する「物流経営士課程」については、旧壮年部員が参加した特別物流経営士課程がその嚆矢(こうし)となっていることから、講師・指導員として協力していく。

また、運輸事業助成交付金による支部研修活動についても、三組織による合同研修会の企画等についてリーダー的役割を果たすよう務めていく。

### (7) 広報活動の充実

機関紙「いびき」は、会員の貴重な情報源であることから、テーマを決めた紙面作り等により工夫を凝らしていくとともに、ホームページとの連動を図る。

また、ロジスティクス研究会ホームページについては、一昨年度にリニューアルを行ったが、昨年度再度のリニューアルを行い、活用の可能性も高まったことから、本年度新たに展開・運営していく。

### (8) 忘年会の実施

会員間の親睦を図り、新年に向けた鋭気を養うため忘年会を実施する。

### (9) 親睦ゴルフコンペの実施

健康増進とコミュニケーションを図るため、親睦ゴルフコンペを企画する。

### (10) 三組織の連携

三組織合同セミナー・交流会等の実施

①青年部、女性部との三組織は、世代、性別を超えた物流事業経営者としての連携を強めるため、合同の事業を企画・実施している。

本年度は、例年2月に開催している三組織の合同セミナー・新年会は女性部が担当する年であり、ロジスティクス研究会も会員の力を結集し、実施する。

②三組織連絡会の運営

三組織の連携をより密にし、各組織の事業の円滑化を図るとともに東ト協の政策の浸透を図るため、定期的に開催する。

## ◇第1回研修会報告

広報委員長(旧情報システム委員長) 鈴木 貢

トラック協会壮年部がロジスティクス研究会と名称が変わって、4年目の第1回研修会を行ないました。テーマは「最新のIT環境について」ということで、いま世間をにぎわしているクラウド・コンピューティングやこの四月からサービスを開始した、経済産業省の「J-SaaS」等、世界的なIT環境のトレンドをわかりやすく解説していただきました。

SaaSの概要については、経済産業省SaaS活用基盤プロジェクト担当の勝瀬典雄様、またこのSaaSの活用事例に関しては、経理業務に関して、税理士法人あすなろの森谷修一様、運送事業の販売管理業務に関して、株式会社タイガーの中井好見様にそれぞれ短時間ではございましたが、事例検証をしていただきました。

研修後、かつて壮年部時代に最新の情報ツールとして、話題を集めていた、「フラミンゴ実験局」の事業ならびに会計報告をし、そのまま親睦会へ突入。新しい情報イメージの交換会となりました。

久しぶりの情報システム関連の研修会とあって、参加者の真摯な態度にロジ研の明るい未来を感じた研修会でした。

## ◇お知らせ《行事予定》

○7/8(水) ロジ研正副 16:00～・幹事会 17:30～・支部研修活動費説明会 18:15～ 於:東ト総合会館

○8/6(木) ロジ研納涼会 明治記念館

## ◇お知らせ《その他》

○7/7(火) 女性部(オープンセミナー: 新型インフルエンザ対策について) 15:00～ 於:東ト総合会館 7F

○7/13(月) 経営者実務セミナー: 安全のより前化 17:30～ 於:東ト総合会館 7F

セミナー参加は東ト協教育研修部にお問い合わせください。